令和6年度 第1回多賀城市総合教育会議 会議録

- 1 日時 令和7年1月29日(水) 16:15~17:25
- 2 場所 多賀城市役所3階 議会図書室
- 3 出席した構成員
市長 深谷 晃祐
教育長 麻生川 敦
委員 小野 聡子
委員 高田 彩
委員 大井 知教
委員 星山 純一郎
- 4 欠席した構成員 なし
- 5 事務局職員
企画経営部長、企画経営部次長、企画課長補佐、企画課近藤 沙樹
- 6 その他出席した職員
教育部長、教育委員会事務局次長、学校教育監、生涯学習課長、文化財課長、教育総務課課長補佐、教育総務課鈴木 博之
- 7 協議・調整事項
 - (1) 令和7年度に取り組む教育分野等の主な予定事業について 資料1
 - (2) 児童生徒を取り巻く課題について
 - ア 多賀城市の児童生徒長期欠席状況の傾向と対策 資料2
 - イ 令和7年度に新たに取り組む児童生徒支援について 資料3
- 8 主な発言内容

※要点筆記。職員は原則役職名

議事(1) 令和7年度に取り組む教育分野等の主な予定事業について 資料1

- ▽ (星山委員) 16ページヤングケアラー支援事業について、調査をすることのことだが、現時点でそういった子どもはいるのか。
- (企画経営部長) 原因や環境が様々組み合わさることもあるらしく、ヤングケアラーと呼んでいいのかどうかは問題がある。実態として過度に介護等に時間を取られ、本来の勉強や遊びができない子どもを見つけて、しっかり勉強や遊べるようにしていこうという事業である。実際にいるかどうかは、ヤングケアラーとしての支援ではなく、別要因で支援している人はいる。ヤングケアラーとしての支援事業はこれからするが、様々な福祉事業で過度な労働や虐待を受けているようなお子さん等は支援している。
- (大井委員) あんまり埋没している人はいないと思われる。改めて本人に対してアンケートを取ることとはよいことだと考える。
- ▽ (大井委員) 19ページ公立保育所再編事業について、八幡保育所と志引保育所の合併することにより、定員数が減って入所できなくなるお子さんはいないか。

- （企画経営部長）そうならないように体制を整備する。
- （市長）待機児童は、年度末にはほぼゼロになっている。民間の施設も多いので、まずは民間の定数を埋めており、年齢によって公立保育所は定員割れもある。
- ▽（大井委員）28ページ学校教育支援事業[小学校]について、看護師を配置とあるが、人事あっせん業から手配をかけるとトラブルが非常に多発しているので、ご留意していただきたい。
- （小野委員）同事業について、特別支援教育支援員の人数が減少して据え置かれているが、特別支援を要する児童が減っているのか。
- （教育部次長）特別支援を要する児童生徒は増えている。支援員が減るのは、週23時間勤務から週30時間勤務にすることで、勤務時間を長くし、児童生徒との関わりを充実させるためである。
- （小野委員）中学校も同じ考え方か。
- （教育部次長）お見込みのとおりである。
- ▽（高田委員）30ページ部活動地域教育プロジェクト事業について、これから地域のスポーツ文化芸術団体の現状を把握されると思うが、多賀城市市民活動サポートセンター等に登録されている市民団体に声掛けをするのか。
- （教育部次長）お見込みのとおりである。
- （高田委員）民間の教室を持っているところ等は対象から外れるのか。
- （教育部次長）対象に含まれる。文化系や運動系など現状の部活動にないものも選択できるよう、団体等に問いかけ、リスト化して多様な選択肢を示していきたい。具体的な費用等はこれから議論する。
- ▽（高田委員）36ページ特別史跡多賀城跡復元整備事業について、案内看板設置工事はガイダンス施設の案内看板か。
- （文化財課長）ガイダンス施設の入口に設置する看板の繰越分である。
- （高田委員）インターネットルーター等設置にはフリーWi-Fiも含まれるか。
- （文化財課長）お見込みのとおりである。
- ▽（小野委員）59ページ観光まちづくり推進事業について、地域おこし協力隊を利用するのは初めてであり非常に楽しみである。どのような方を想定しているか。
- （企画経営部長）直接採用等様々なやり方があるが、今回は業務委託である。仕様を作ってそれに基づいた人材を派遣していただく予定である。外から見た多賀城の課題を解決できるような人材を想定している。
- （高田委員）コンテンツ開発や経験値がある方ということか。
- （企画経営部長）コンテンツ開発やプロモーションも含め想定している。
- ▽（小野委員）68ページスポーツウェルネス施設整備事業について、見た目や機能性がよく、行きたくなるようなものにしていただきたい。市立図書館は夜遅くまで開館時間が長いが、この施設はそれが可能か。
- （企画経営部長）スポーツやトレーニングをしてすぐ帰るのではなく、長時間滞在できるような居場所になれるようにありたい。
- （小野委員）小中学校のプール授業が、各学校のプールではなく、この施設のプールを利用できるようにするのか。
- （企画経営部長）お見込みのとおりである。
- （小野委員）ぜひそうしていただきたい。

→（市長）利用者を増やしていくには、現状の施設のあり方では限界があるので、この表現に変えた。市民のニーズに対応しながら愛されるスポーツ施設になるとよい、かつ、今までの利用者が利用できるような施設にしたい。

▽（高田委員）59ページ観光まちづくり推進事業について、文化庁の文化観光推進事業等も目指して東北歴史博物館が拠点施設となり、体験プログラムを増やしていくようなイメージか。

→（企画経営部長）お見込みのとおりである。

→（大井委員）同事業について、ライドアラウンド多賀城が個人的に大好きで参加した。昨年ポイントが増えた。アプリの会社が変わり、マップなどが個人的に使いにくかった。一昨年の方が使いやすかった。歴なび多賀城などいいものが出てきているので残念だった

▽（高田委員）65ページ市民文化創造推進事業に関わるかと思うが、多賀城政庁跡にて市民が日常的に過ごしたり、来訪者が滞在したりすることイメージした際に、中央公園にできるカフェでのテイクアウトやキッチンカーでの買い物したもののごみ箱等はどうするのか。また、異なる年齢層が中央公園と多賀城政庁跡で過ごすことになると思われるが、中高生が市外から友達を呼ぶなど、過ごし方の具体案を考え、より実態に近いような100通りの過ごし方を考えてほしい。

→（企画経営部長）多賀城創建1300年事業の一環として多賀城お散歩ガイドブックをつくって有料で販売しようかと考えている。高校生での視点はなかったなので、検討する。ごみ箱は設置した方が良いか。

→（高田委員）わからない。上に登ったらいい眺めなので、そこまでご案内すると思われる。私たちは持ち帰るのが習慣だが、観光で様々な方を受け入れると汚れる可能性があるので、ゴミ箱は置かなくても良いと思うが、想像を膨らませてほしい。

→（小野委員）ごみ箱はない方が良くと思う。ない方が汚れは小さいかと思う。

→（高田委員）どう過ごすか、捨てられないためにはどうしたら良いか、市民の意識づくりをワークショップなどで培われるとよい。これからはおもてなし側であるので、育てていけるとよい。

→（市長）ごみ箱を設置するかどうかは議論の余地ある。施設は作って終わりではなく、どう活用してもらうか使う側の目線にたって必要なものを考えたい。

議事(2) 児童生徒を取り巻く課題について

ア 多賀城市の児童生徒長期欠席状況の傾向と対策 資料2

▽（小野委員）たつじんテストについて今年度は実施したか。

→（教育長）実施していない。昨年度までは学力テストをやっていた。それをこっちにした。学力テストを残す学年もある。

▽（小野委員）多賀城市はいろいろやっているのだから、ここで収まっていると思っている。多種多様なパターンに対応できるようにしていると思う。

→（教育長）昨年度は低学年で増えた。休んでもいいという形が広まったのは、いい面もあるが、なんでも家の方が解決してしまう傾向が強いご家庭がある。お子さんが自分で出来る部分に先回りして手を出さず等親御さんに頼ることが多くなると、学校でなにかあった場合に家庭に戻ってしまう傾向が強いグループがあると考えられる。一方で、家庭での構わりが少なく、語彙が足りないことから言葉の表現が出来ずに説明出来ず手が出るグループもある。どちらも学校不適応を起こしてしまう。小学校の低学年で増えていないか分析している。ひらがなの習熟に時間がかかる子が増えている。言葉を身に付けていない子が増えていることは、一昨年あたりから取り始めた統計で確実に増えてきている。

小学1年生が終わるころにそれがあると、進級した際に、勉強が辛い、気持ちを打ち明けられずに引きこもる等になってしまう。1番身につけなければならないものが準備できないまま小学校に入学しているお子さんが増えているという仮説を立てている。

→（小野委員）そのためにスクリーニングテスト等を行っているので、多賀城市は対策を講じていると考えている。

→（市長）不登校の傾向は全国一律ではないか。

→（教育長）そうだと思う。鳥取の分析を基に多賀城市でもスクリーニングを行った。鳥取の10年間の蓄積では落ちてきている。読み聞かせや対話などを小学校でも取り入れられないか提案している。

→（市長）不登校の原因は家庭にあるのか。

→（教育長）学校にある場合もある。学級経営など様々あり、一概には言えない。

→（小野委員）多賀城市はアセスメントをしっかりとやっている。アセスメントが正確にできないと対応できない。

→（教育長）やっとなんか積み重なってきたところである。

イ 令和7年度に新たに取り組む児童生徒支援について 資料3

▽（大井委員）サードプレイスの土地問題はどうなっているのか。

→（企画経営部長）土地は決まっていると聞いている。

→（大井委員）特別養護老人ホーム多賀城苑は、土地代に収入の10%取られている。契約後10年間無償だったが、その後は路線価に沿った価格になっている。規模が大きく、入所者数も多い。経営を圧迫しかねない。塩竈市にある特別養護老人ホーム清楽苑や七ヶ浜にある特別養護老人ホーム第二清楽苑は、無償や価格が安い。なにか得策があるとよい。

→（市長）頭に入れておく。

以上